

特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 29

ASEAN グローバルプログラム 実習を終えて

谷 沢 一 樹
Kazuki TANIZAWA
機械システム工学科 2年

1. はじめに

2018年8月28日から9月6日にかけて、ASEAN グローバルプログラム実習に参加した。ベトナムとシンガポールの二カ国で活動した内容を表1に示す。

表1 日程表

8月28日(火)	出国・オリエンテーション
8月29日(水)	企業訪問 (鈴木栄光堂ベトナム社, Rkkei Soft社, NTQ社)
8月30日(木)	PBL活動
8月31日(金)	PBL活動・プレゼン発表
9月1日(月)	博物館見学, 自由行動
9月2日(火)	Tong氏の講演会 (WASABI CREATION社)
9月3日(水)	南洋工科大学見学・懇親会(研究室見学, 授業体験, NTU学生懇親会)
9月4日(木)	Google社見学, ビジネスパーソン交流会, 加藤氏講演
9月5日(金)	自由行動
9月6日(土)	帰国

2. 参加目的

このプログラムに参加した目的は2つあった。

1つ目は消極的だった自分を変えることであった。大学生になり、今までより多くの勉強以外の時間を得たが、バイトや娯楽にほとんど費やしている日々を送っていた。しかし周りの友達に資格を取る者や、夢や目標があり努力する者などがおり、将来が不安になった。めんどうくさそうなことを常に避けてきた結果、周りとの差ができたと感じたので、

自分が努力することができる環境をつくり積極的に行動できるようになるためこのプログラムに参加した。

2つ目は英語力を高めるきっかけを作るためだった。中学から英語を学んでいるが、いつまでたっても英語を流暢に話せない。しかし現在、日本企業は海外進出をしているところも多く、仕事で英語を使うことが多いと考えられる。将来の自分の仕事の幅を狭めたくないで、海外へ行き、英語に触れる機会をつくり、英語に対するモチベーションを上げたと思った。

3. ハノイでの企業訪問

ハノイでは栄光堂ベトナム社の工場見学とNTQ社様で働いておられるベトナム人の方と交流に参加できた。特に鈴木栄光堂社の工場見学時には、鉛を作る工程やベトナムの工場の特徴など、細かい内容も話して下さったし、質問にもすぐ対応して下さっていたので、学んだことが非常に多かった。その中でも印象に残っていることを以下に述べる。

1つ目は日本にある工場とベトナムにある工場の違いについてだ。栄光堂で働く人は女性が多く、若い人が多かった。若い人が多いのは人口ピラミッドから推測できるが、女性が多かったのは意外だった。理由としては男性に比べて女性のほうがまじめに働く傾向があるし、意欲的に行動する人が多いとのことだった。また、ベトナム人は日本人よりも幽霊と言うものを意識しており、夜中に働く人がいないため、8時～17時のシフトしかないという話には驚いた。ベトナムの商品が安いのは人件費が安いことが一番の理由とのことで、原材料の値段は日本とさほど変わらないこともわかった。

2つ目は鈴木栄光堂社の工夫である。工場の拡張をしやすいように外壁を薄くしていたり、検査ではじかれた鉛を再利用し無駄をなくしたり、個人差なく清潔を保てるように手洗いやシャワーの時間を決めるなど、細かい部分まで工夫されていた。自分も、何をするにしても広い視野を持ち、多くの工夫



写真1 栄光堂社での工場見学の様子



写真2 NTQ社での技術者との交流会の様子

をしていくべきだと感じた。

3つめはものを売る大変さだ。ベトナム人の好む味、情報の経路、餡の使用目的、ライバル会社など、考えなければならないことが山ほどあり、1つの餡を売る難しさを理解した。すべてを完璧にするために、4P (product, price, place, promotion) や4C (cost, customervalue, convenience, communication) などを活用して考えることが大切だと実感した。

ベトナムのIT企業であるNTQ社にも訪問、技術者と交流する機会があったが、働く人は本当に若い人が多く、印象的だった。彼らは慣れない日本語でも堂々と話しておられた。コミュニケーションが何よりも大切だということはいろんな人から聞くが、積極的に話したり、間違いを恐れずに、相手に伝えようとする姿勢などはここで触れたベトナムの方々には特に強烈であり、そのようなコミュニケーション能力は見習いたいと感じた。

4. おわりに

たった10日間ではあったが、自分を変える大き

な実習になった。今まではできないだろうからやらないという思考だったが、これからはそのようなつまらないことをせずに、積極的に取り組んでいこうと思った。今までは日本の一流企業に入れば成功という安易な考えだったが、働くまでの取り組みや働きはじめてからの取り組みが大事だという考えも湧いてきた。現状に満足せず、目標をたて、それに向けて日々努力していこうと思う。

また今回の活動を通して英語の大切さも改めて理解した。ベトナムは日本と同じで英語は第二言語なのに、ベトナム人と話しているほとんどの若者が英語を流ちょうに話していた。社会人になり働いていると英語でやりとりすることが多いと思うので、大学生のうち英語を話す力と聞く力をつけたい。自分を向上させるために自分が頑張れる環境をつくらうと思う。

曖昧な気持ちで申し込んだが、このプログラムに参加できたことは本当に良かった。